

## 滋賀大学経済経営研究所調査資料室報⑨

### X 創立のころ(上)

——「彦根高商創立当時を語る」座談会」という記録——

〈始まり〉というのは、いつ、どのように、だれによって想起されるのだろうか。ここで問われるのは、彦根高等商業学校の〈始まり〉である。

陵水会より会館内の倉庫に古い資料があるとの連絡を受けて、2003年10月16日にそれらの資料を、いったん経済経営研究所であずからせていただいた。ブックトラックにして1台分の資料を、わたしと、ティーチングアシスタントの桂浩子（本学大学院経済研究科修士課程）とで整理を始めた。そのなかに、表紙に「昭和十二年一月／創立座談会原稿／陵水会」と書かれた簿冊をみつけた（以下、原稿、とする）。そこには、「彦根高等商業学校陵水会」の名がはいった22×15の原稿用紙100枚が綴じられている<sup>1)</sup>。ほとんどの紙面に印刷所にむけた指示が書き込まれているので、これらは活字印刷するための元原稿らしいのだが、これをみた当初のわたしには、この原稿の掲載誌がわからなかった。

その後、本誌前号に掲載した「彦根高等商業学校刊行物目録稿」を作成するために資料をみてゆくなかで、この原稿が彦根高等商業学校の同窓会である陵水会の機関誌『陵水』第9号（彦根高等商業学校陵水会、1937年2月15日発行）に掲載されていることを知った（52頁～64頁。以下、陵水版、とする）。表題は「彦根高商創立当時を語る」座談会」である。

原稿と陵水版を照らしあわせてみると、前者に「ヌキ」「ヌク」などと指示されている部分が、そのとおりに、公刊された後者では削除されているとわかった。わたしたちの彦根キャンパスではもはや、戦前の『陵水』という逐次刊行物が目にふれにくくなっているし、原稿の削除された部分を復活させることにも意味があろうと考え、ここに「創立座談会原稿」をすべて活字化することと

1) 原稿には、座談会記録の部分に1～83の、のちに記す彦根高等商業学校創立寄附金芳名録の部分に293～309のナンバーがうたれている。

した。<sup>2)</sup>

この原稿が活字掲載された『陵水』第9号は、「陵水会館建設特別号」と銘打たれている。その号の前後の『陵水』をみても、いまのところ、なぜこの時期に彦根高等商業学校の創立時が回顧されたのかの説明はみつかっていない。<sup>3)</sup>

なお、本稿は本誌本号と次号とに分割掲載する。この座談会にかかわる解説については、次号に記す予定である。

掲載にあたっては、漢字の旧字を新字にあらためたが、かなつかいはそのままとして、カンマを適宜おぎなった。原稿での改行を「/」であらわしたばあいがある。原稿に削除の指示がつけられた箇所は、ゴチック体であらわしポイントをさげた。原稿と陵水版を照合したうえで削除部分以外の異同については、必要に応じてルビをふしてあらわした。それ以外の原稿上の修正については、直された表記のほうを採録した。2文字のくりかえし記号は、それをういなかかった。発言者の見出しは、太ゴチック体とした。原稿のルビと傍点はそのままとした。〔 〕内の表記は本稿作成者によるものである。

~~~~~

「昭和十二年一月／創立座談会原稿／陵水会」〔表紙〕

「彦根高商創立当時を語る」座談会

時日 昭和十一年十二月五日（土）／午後二時五十分ヨリ

場所 校長室ニ於テ

出席者 来賓側 平塚分四郎氏／田原辰蔵氏／安居喜八氏／渡辺九一郎氏／藤田太吉氏（当日欠席）

本校側 矢野校長／田岡教授／原田教授／浅見教授／桑原教授／杉井 囑託

速記者 西沢政之氏

---

2) Microsoft Wordによる原稿の第一次入力の前記の桂浩子がおこなった。したがって本稿は阿部と桂による共著と記すべきだが、修士課程の大学院生には『彦根論叢』への執筆資格がないので、ここに明記するにとどめた。

3) 『陵水』第9号が発行された翌年の1938年には、彦根高等商業学校の研究紀要である『彦根高商論叢』で「開校十五周年記念論文集」が編まれる。

**矢野校長** それでは、お揃ひでございますから始めることに致しまして、一寸御挨拶申上ます。

今回は皆さん、大変お忙しいところをお集まり願ひまして、有難うございます。実は以前から、学校の創立当時のことを、当時種々御配慮願つて居りました方々に伺つて、それ等の方々のお話から、当時の事情を明かにするといふことは、将来学校の歴史を作ります上にも非常に大事なこと、思ひ、何れ沿革史なんかも作らなければならぬのですから、そういふ時にその当時の事情を詳しくして置くことは学校の為めになるし、殊に各方面からお世話下さつた方々を永く記念するといふことにもなりますので、一度集つて頂きたいといふ考へを前から持つて居りましたが、その機会を得ませんでした。そうこうします中に年が迫つて参りましたので、卒急なことでありましたが、大変御迷惑にも拘りませずお忙しいところを御都合おつけ下つて、茲にお集り下さいましたことは、学校として此の上もない仕合に存じます。どうかその時のことを座談の積りで、雑談として、何もかも打明けてお話下さいますれば、非常に結構だと存じます。どうぞよろしく願ひ致します。

尚出席者を一寸御紹介申上げますと、こちらのは調査課の方の關係の深い原田君、それから主席教授の田岡君、その隣りが庶務課長の浅見君、その向ふが第一回の卒業生でその当時の学生だつた桑原君でございます。

**原田教授** 皆さん御記憶は確かなこと、思ひますが、何しろ十数年前のことですから、幸ひ五周年記念の記事を載せた新聞で、その当時沿革を書いたものがありますからこれを一偏読んで見まして、思ひ出を喚起させて頂いて、それを糸口としてお話を願ふことにしませうか。これは大阪毎日新聞の十月三十一日の滋賀版のものです。失礼ですが一寸読み上げて見ます。

「大正六年の滋賀県会で、本県は近江商人の由緒ある土地であり、現に志望者も多いとて、高商設立の請願を政府へ建議した、それが効を奏したか否か、大正八年一月、犬上郡会議長だつた渡辺九一郎氏が、彦根町立商業学校の県営移管運動の為、当時の県知事森正隆氏を訪問、県営をねだつた時、白頭森知事

は意味ありげな微笑をを浮かべ、「なんだ、そんな小つぼけな問題を……」と渡辺氏に何事かを耳打ちした、そのさゝやきこそ滋賀県に高商新設問題であつた、ときの文部大臣中橋徳五郎氏は、教育機関完備の新計画のもとに全国に高等学校増設案を立て、わが滋賀県にも高商が配置されたので、かくと聞いた渡辺氏は彦根商業の移管運動をそつちのけに、狂喜して帰町、犬上郡選出県会議員の彦根町安居喜造氏らと諮つて、直ちに彦根町会議員、有力者の会合を開いたが、誰一人異論者のあるはずなく、殊に意外な人が率先して寄附を申出た、め、一同の乗り気かげんは一方でなく、いよいよ猛運動の腰をきめたものゝ、大津市は市債五十万円を募つて、も大津に設置さすべく運動を起してをり、こゝに高商を中心とした大津対彦根の激甚奪取、運動の火ぶたはきられた、しかし彦根は蒲生郡以北七郡の白熱的の希望のうちに、一月十五日、犬上郡有志大会を開き、県議安居喜造氏が委員長、郡内代議士、県会議員、平塚郡長、郡会議員、町村長、有力者等約五十名の委員をあげ、廿日、彦根町有力者安居喜八、石橋彦三郎、大橋弥一郎、広野織蔵、安居委員長、渡辺委員が会見して、まづ十万円の寄附ができた、一度の会合に十万円の寄附がまとまつたのはレコード破りで、これが運動の氣勢を高めた大原動力となり、委員七名が犬上郡出身の在阪有力者阿部房次郎、弘世助太郎、伊藤忠兵衛、野瀬七郎平、北川与平氏等を歴訪、応援を求めて、廿三日に委員大会を開き、彦根在住者及び出身者で廿五万円、犬上郡有力者十五万円、彦根町四富豪で十万円、そのほか十万円合計六十万円の寄附が決定し、すっかり膳立てがなつたので、二月六日、安居委員長、渡辺県議ほか数名が森知事らと、もに東上し、かねて諒解ある当時の政友会滋賀県支部長井上代議士の紹介で中橋文相を訪問陳情したところ、文相は「彦根に高等商業を設置せよ、そんな馬鹿なことがあるものか、県庁の所在地は彦根でなからう……」、とげんもほろゝの返事に驚いたのは、委員よりもまづ森知事、「大臣は自分を米原駅まで呼びよせ寄附金はこれだけ……」とたしか指六本を車窓から見せたはずだがと、あはてだし、井上代議士も、犬上郡一体がわが党へ入党の内約があることやら、彦根は江州商人の本場であり地の利に恵まれてゐる

ことやらを述べて、彦根の肩をもち、さらに政友会本部に野田大塊翁を訪ひ、大手がらめ手の運動をした、その時大津側からも、今屋市長が政友派の岡田定治郎氏らと東上、猛運動にやつきの最中、至るところで運動の鉢合せを演じたが、遂に大津市は土俵ぎはで背負ひ投げを食はされ、二月九日、高商は彦根に内定の旨、文相から森知事を経て通知があつた、もちろん犬上郡内の有力者は挙つて政友派に早変わりしてゐた、かくて現ナマ四十八万円と敷地一万六千二百余坪を提供し彦根の宿望は達し、大正十二年四月開校の喜悦に迎へられた。高商設置の委員長として活躍した安居喜造氏は、大正八年二月六日、運動の為東上不在中に無理矢理に、彦根町長に選挙され、在任中は高商設置のため始終奔走し、翌年十二月、高商新築の着工を見て辞任したため、「高商町長」のニックネームをつけられたなどのエピソードも秘められてゐる。」

大体当時の事情はこんなものであつたらしいです。

これを見ますと、大正六年に滋賀県会で高商設立の請願をしたといふことが書いてありますが、そういふことがあつたのですか。

**平塚氏** そんなことはありません。その記事がチツト違つて居ります。森知事が来たのは、大正六年十二月十七日だつた。それから問題が起つたのは、大正七年だつたと思ふ。風邪を引いて居つたが、倶楽部へ一度来て呉れといふことで行きましたが、言葉の分りにくい人で、話が半分位しか分らん、東北訛りだから、たまで分りませんでした。その前に来た時に、水利の方を一緒に見て歩き、その時港湾を作る大体の腹を作つたのです。それから暮になつて、今度文部省で専門学校を拡張することになり、福井や岐阜に、高等工学や高等農林が出来るが、滋賀県はこういふ商人の巢窟見たいなところであるから、滋賀県にも高商を作つたら良からうと思ふ。それに就いては、大津に県庁があるのだから、大津に置くことが本当だらうと思ふけれど、大津の財政状態から見るならば、到底こちらの要求するだけの金が出せずに、出来ないに違ひない。若し運動の結果彦根でも良いといふことであつたならば、金を出すか、どうか、こういふ話であつた。それは耳寄な話ですから、帰りまして皆の者と相談をしてみますと、

云つて帰つたのは、多分暮頃だつたと思つて居ります。

それから帰つて来て、有志の人々、何人でしたか、郡役所の二階に集つて貰つて、話をしました。それは良いことであるが、何より金が第一である。幸ひ当時は金の洪水見たいなものであつて、色々相談を致しましたが、最初は八十二、三万円乃至八十七万円といふ向ふの希望があつたのです。まア、それ位のことならば何とかしようと、いふことで有力者の間で話が出来、その結果、それでは大阪方面の協力を頼むやうにしやう、と寄附よりも高商設置を引受けるかどうか、それに協力して呉れるか、どうか、といふことを頼みに行きました。丁度行ききました時分には、弘世君、松本君、不破君、岸田奎君、神崎の田附政次郎君、阿部君等が居られましたから、そこらの人々と協議して見たところ、弘世君あたりは、それは誠に結構なことであるから、こちらは背水の陣を敷いても応援するからやれ、といふ賛成を得ました。それから帰つて来て相談の結果、五人の人が十万円出すといふので、一層基礎が出来た訳で、直ぐに知事の方に返事をして、渡辺君あたりが、呼ばれたのか、向ふから来て話をしたのか、その辺はよく分かりませんが、知事からも表向に話をする事になりました。

それから愈々寄附の段取と云ふことになりまして、凡そ町で幾ら、郡で幾ら、大阪で何ほ、作るといふ概略の話合が済みまして、そして郡の委員を作つた、委員が何名でありましたか数は存じませんが、委員を作つたのと、それから蒲生以北の有志を集めて、今の公会堂で懇談会を開きました。

その時に、藤沢万九郎といふ東浅井郡の人があり、この人は年かさでもあり、やり手でもありましたから、この人を座長に押し立て、蒲生以北の大賛成であるといふことの決議を致しました。各郡の委員が寄つて協議したことは一回切りでありましたけれど、後に何か事があればそういふ人も招待したりなんかして居つた訳です。まア段々基礎も出来て来たものですから、寄附に参ることになりました。

そうして東京へ参りましたのが、何時でありましたか、少し暖くなつてからだつたと思ふのですが、渡辺君、安居君、私、それと既に上京して居つた築瀬

源蔵，北川嘉平，それにもう一人誰か，皆で六名程参りまして，烏丸の角の吾妻屋といふ宿屋に陣取つて，運動を始めたのです，無論大津の方からも出て来て対抗して居りましたけれど，大津の金額は三十万円はおろか，十五万円も六ヶしいからそんなものを相手にして居つても仕方がないから，出来るだけ頑張つて奮闘し奔走をしました。知事が東京へ行きます時に，町の有志の人々が米原まで見送りまして，大いに懇請に努めた訳です。その時に知事が私に，一体君の方で八十万円といふ大きな金高が寄附できるか，と云はれたので，此の黒い首だけれど，この首にかけてこしらへて見ませうと笑つたら，そこまで覚悟して居れば良からうと云ふ話でありました。知事はどちらかと云ふと，政友会を作りたいといふ腹が内面にはあつたのです。こちらは大体国民党が優勢で，親方に司法大臣になつた大東義徹なんていふのが居りました。浅見竹次郎，渡辺君あたりも，無論国民党の一派であつた。（笑声）だからどうしても茲の一角を破らなければ，滋賀県の政友会を盛んにすることが出来ないといふあの人の考へがあつた。そういふ訳で高商設立を餌に，その一角を打破るといふことも内面にはあつたと思ふのです。それで，皆んなが行く時には，入党の書面を持つて行つたゞらうと思ひます。私はその時は役人ですから，そういふものを見せて呉れなかつたけれど，その中に入党をする，せないと，云ふことで，安居喜造君と渡辺君と競争をして，此の場合になつて，何を云つてゐるのか，と鉄拳を振り上げたりして（笑声，渡辺，安居両氏微苦笑さる）仲々随分悲喜劇もありましたが，兎角共同して入党するといふことが，内面の理由にもなつてゐますし，又寄附金もこしらへるといふ覚悟を云つて，森知事等と時の中橋文相に陳情したのであります。それには井上代議士が，専ら奔走して呉れました。高宮の今の貴族院議員吉田洋治郎君か，その時は政友系でもなければ国民党でもなかつた，宙ぶらりであつたのを井上敬次郎君の辣腕に引づられて，自然と政友会に入党するといふことになつたのですが，これは全く井上君の手腕に依るものです。これが丁度議會中でありまして，議會でどうも近頃文部当局が，政府が専門学校を作るに就いて地方の者に寄附金を強要して居る事実がある，

といふことで、大分難詰されたが、時の文部大臣中橋徳五郎氏はそんなことは全然ない、と云ふやうな答弁をして居られた。そういふことが多少ありましたものですから、最初の八十七万円が、四十三万円に減額されて、大変我々は助つた訳です。そんなことで大いに力を得て、大阪方面の寄附金募集に参りました。一口一万円といふので、一万円以下は貰はぬといふやうな積りで行きましたが、何処へ行きましても結構なことだ、寄附しよう、幾ら出せばいいか、と言はれると一万円より下は頂きません、と仲々大きく出たものです。兎に角最低一円で五千円貰つたのは、たつた一人でありました。鉄工所をやつてゐる下村耕次郎といふ人は、一万円ではえらいから、五千円でこらへて呉れ、と云はれたので、一度考へませうと云つて貰はないで帰つた（笑声）が、相談の結果五千円でも貰ひ得とかうと、云つて貰ひました。それから不破栄次郎氏、これは一番儲け頭といふので店へ出かけて行きました。支配人の松宮庄藏君を通して、不破氏に話したところ、何程出したら良いか、まあ十万円は欲しい、と云つたら、十万円はえらい、五万円だけにして呉れ、といふことで、五万円の小切手を直ぐに書いて呉れましたので、そのまゝ貰つて帰りました。それから阿部房次郎君が三万円だと思つて居りますが、

**原田教授** 書類では一万五千元ですな、

**平塚町長** 初め、三万円と云ふたのでせう、あちこち取られてゐるからつらいので何とかしよう、といふことで一万五千元になつたのでせう。それから田附政治郎君にも二度か、三度目で一万円約束して来ました。それから原弥兵衛といふ人が仲々大きいから、その人にも三万円位は貰ふという話であつたが、五千円しか出さん、それで松本君を通して松本君に委すといふことで、松本君の計ひで一万円貰つて来た。松本君はもつと出してもいいが、兄より余計出す訳には行かんから一万円にして呉れといふことで、一万円、そんなことで一遍に十五万円程持つて帰つたと思ひます。

それから又後で二度か三度行きました。岸田奎君が一万円、それから弘世さんが一万円引受ケテ呉レマシタ、三万円程度引受けて置からといふことで、三



万円貰ふ積りをして行つたところが、自分は一万円出すといふのです。それでは話が違ひますから、幸ひ小堀留次郎君が伯父さんか何かに当るものですから、小堀君を滞同して行つて話したが、一向話が續まらぬ。小堀君が話して呉れると思つて居つたのであるが、道頓堀へ行つたりなんかして、一向効能がないので弱つてしまつた。おかしな話ですけど、折角連れて来て詰らん、宿賃だけでも詰らんと云つて駄話をして居りました。そして後に一万円出して、後一万円は何処かで世話してやると云ふことで当てにして居たが、後の一万円は出来ずしまひでした。そんなことで大阪方面だけで十七、八万円ほど出来たと思ひます。勿論二度も三度も行きました。その時は、田原君、渡辺君、無論町長としての安居君、それから北川嘉平、そういふ連中が行きました。最初前川さんが、日本橋の岸沢屋が常宿でありましたからそこへ行きましたけれど、途中で紫雲寮に變へて、そこで協議をしては出て行つて居つた訳です。

そして、町の方も順調に進みますし、郡内も相当出して呉れますし、金は早く必要だけのものは出来てしまつてゐました。その最後に私は神崎の、塚本君、升村君、それから八幡の梅村君等に頼んで置き、応分のことはしてやらうと云ふことで、行けば直ぐ呉れるのですけれど腹脹れて行く気にもならず、とうとう行かずしまひでした。そんな風で大正八年は好況時代でしたから都合良く行き、寄附金の問題に発端して郡会を開いたりしまして、渡辺君等到大變奔走して貰つた訳です。

それから敷地の問題ですが、この敷地を何処にしようかといふことに就いて種々考へましたが、今この土地は元桑畑でありましたが、余り成績のいゝ桑畑でもなかつた。こゝならば一万何千坪は楽に出来るからと大体の目星をつけて置いたが、そういふことになると高いことを言ひ出すから、はつきりさせなかつた。それから他の候補地として只今帆布会社のあるところ、と御三条の田中神社の附近にも予定地を作り、文部省から見えるとあつち、こつち実地を見せたが、こちらにするといふ腹だけは決めて置き、便利に顔といふ掛引だけでそういふ風にやつておきました。文部省には内容を話して置きましたが、文部省の方で

も茲が良からうといふ話があつて、愈々買収に掛りました。最初は十二、三円といふ高いことを云つて居りましたが、元は三十銭か五十銭位で買ったもので、全部屋敷ではあつたけれど桑田になつて居るのですから、高いといふので、段々値切りまして、確か六円位になつたと思ひます。整地費も高く掛るまいと、坪一円位見積つて置いたが、結局三円位につきました。松原の者が持つて居つたが、安い値で買うと種々工作をやつた訳です。兎に角そんなことでこの土地が買へました。

結局森知事の色々な奔走と、東京に於ける井上代議士等の奔走、それから有志の非常な努力と町の有力者の御共鳴といふやうなものが塊つて、此の学校が出来上つたと思ひます。

此の間には色々面白い馬鹿話もありますけれど、私の記憶に残つて居る大要はそんなものだと思つて居ります。

**安居氏** 後三条の土地は青波の村長が反対だつたですね。

**平塚町長** 坪六円で買って呉れるならば考へてもいゝといふ話があつたが、大体は土地の少いところだから、田地を無くしてまでやるのは困る、といふのが反対の理由だつたのです。

**田原氏** その時分の村長は

**平塚町長** 戸崎君になつて居つたでせう。

**安居氏** 戸崎君でせう

**平塚** 東京へ運動に行きました時分は宿で晩飯を喰ひまして、それから吉原をひやかしに行かうかといふ話になつて、寝巻を来たまゝで乗込んだ。ブラブラ歩いて行く内に小便がしたくなつたが、いくら便所をさがしてもない。仕方がないのでカフェーに入りまして便所を貸せ、と云つたところ、生憎小便所がございませんと云ふことで、ビールは飲んだは小便は余計したくなつたはで、困つてしまつたあげく、水道タンクのある隅の暗いところへ行つて、円陣を作つてこつそりやつて来たが、あんな詰らんことはない、高い便所代についた、といふやうなナンセンスもございました（洪笑）

原田 そんなこともありましたか。

渡辺 あの時分、乙種程度の商工学校といふのが、今の商業の前身にありましたね。

平塚 工業学校をやつたところが旨く行かんから、商業を加へて商工学校となつたが、商業は志望者があつたが、工業の方は志望者がない為め、乙種の彦根商業学校になつてしまつた。それが六年か七年頃でした。そして渡辺君の在職中に甲種に引上げて、町立商業学校となつたのです。

矢野 私はその時分、渡辺君を知つて居ります。

渡辺氏 私の追憶を簡単に申上げて見たいと思ひます。書いて貰つていゝかどうか分かりませんが、この経過概要にも一寸書いて居ります通り、私は郡会議長として一日森知事を尋ねて、町立商業の県営移管をお願いしたのでありますが、恰も原平民内閣の始めに當つて、庶政一新といふ意味で、兎に角高等教育の地方分布をやらうといふことで、滋賀県にも高商が割当られてゐる、学校も学校ぢやが、一つこつちの方に骨折つて見たらどうか、こゝういふお話があつた。これには寄附金がついて廻るから、金の問題だが、何とか一つ、皆の者に相談して、考へて貰ふからどうかよろしく、と申上げて帰りました。そして安居君御存知の通り、安居君と銀行の重役の先生達に相談したいから、都合を聞いて、会見を願うぢやないか、といふことで帰るなり、直ぐに打合せをした。ところが銀行総会の終ひで一月二十日頃、魚市が下魚屋町にあつて、そこで晚餐会をやつてゐるから、その席で会うと云ふことで魚市へ行つてお目にかゝり、実は県へ行つたところが、こゝういふ問題であり、金さへあれば出来ぬこともなさそうな、知事の話であるから（我々も後輩の中で）、将来といふことを考へれば、多少犠牲を払つても学校の役立といふことになれば、町将来の為、これ程結構な話はない。金の御心配が願へれば、我々の努力は厭ひませんから、と趣旨を述べて、相談した、結果、意外にも、大橋さんがこれは耳寄な話だから大いにやつて呉れ、金は心配しますから、今でも十万円位の金は出来る、といふやうな話であつた。丁度私は郡会の議長をして居つたものですから、これは彦根の問題ではあるが、

寧ろ郡全体でやらねばいかんと、考へまして、翌日郡会の席上で、こういふ話があるが賛成して貰ひたい、と云つたら、それはいいことであるが、地元の彦根はどうか、といふ質問があり、彦根は十五万円位は出来るだらう、そこまでの意気込があるならばやらう、と云ふ話で都合よく行きました。それから追々委員を組織したり、東上したりしてやつたが、仲々六ヶしい様子、恰も井上代議士が県会議長であつたりして心安かつたから、実は、こういふ問題で来たが、十分に努力してみたいから、何とかしてやつて呉れ、と赤誠を吐露して頼んだところ、彦根町では仲々やれんだらうが、話をして見ようと云ふことで話をしてくれたのでありますけれど、その時分に犬上郡は犬上倶楽部を作つて、中立主義にあつたが、この問題は政党なら政党の問題にして、党の問題で図つて貰ふ方が、順席もやり易いし、近道でもあるから、といふので、東上した者の間で、今直ぐに政友会に入党するといふことにして、入党届を丁度門野君が一緒だつたから、皆んな門野君に預けて置くことになつた。勿論安居君、平塚君等も一緒に行つた村落の中村君等でさへ、入党でも何でもやらうと意気込んで居るのだ、これは何処の問題ぢやと思ふ、彦根町の問題ぢやないが、郡部の人がこゝまで言つて居るのに、そんなことを云つて居つては仕様がなぢやないか、といふ様なことで私と安居君とで激論をやつた（安居氏微笑さる）。その時平塚君が中に入つて、皆んなこの位の確信を以つてやつてゐるのだから一つやつて呉れ、といふことで、そうしやうといふことに成つたのであります。

その頃吉田君は代議士であつたけれど、中立で物足らんからと、井上君から手紙が来て、吉田君を政友に引張り込むやうにして呉れと云ふので、吉田君に中立といふ不鮮明なことはいかんから、政友会なら政友会に入党して貰つてやりたい。これは郡倶楽部一般の意思だから承知して呉れ、といふたので吉田君も引かれて入党した。それも井上君の土産になつて、政友会の総務に会ふことになつた。野田大魂翁等の連中が五、六人居つて話をした。処が野田翁が、井上君に君は予て天津の方が適當だ、と云ふことを云つて居つたぢやないか、と云つたので、実は以前はそう思つて居つたが、地理的にも彦根の方が良いし、

殊に是等の人は政治上の意見を同じくする人だし、何とか援助してやりたいから、心配して呉れと云つた。すると大塊翁は、それは結構だ。何れ総裁に話をするからと云ふことが、きつかけに成つて、やつて呉れましたが、処が二、三日経つても消息がない、あんなことを云つて、人を馬鹿にして居るんかも知れんと云つて居つたが、入党が良いお土産に成つて、ひよつと話が出来たと云ふことであつた。丁度大津からも運動に行つて居つた中に、田中と云ふ弁護士があつたが、この人は元彦根の人で、敵、味方の立場に成つたが、こちらのお土産が功を奏して、向ふは悄然として居つた。そういふことで、東京の運動は一段落ついたのであります。

次に金の問題ですが、これも有力者にお願ひしてやりかけた処、偉い勢でありまして、大阪へ行つた処が、不破栄治郎君なんか、一度に五万円の現金を出して呉れたりしたことは、先程平塚町長のお話の通りであります。そういふ調子で旨く行きました、順調と云へば順調でありましたが、その間には、随分苦しいこともありました。処がその間に、県の方で、力を入れて呉れるとか呉れんとか云ふ話が出て、東京へ来てゐる中に、大津は出来るだけ出して、足らぬ分は県の方で出してやる、といふ知事の腹らしいといふことを聞いたので、それでは困ると議会で、私共と森知事と会つて話した処、何分俺は属僚のこともあるから、直接君等が話した方が良らうと云ふ様な嫌味を言ひ出された。そんなことではどもならんと云ふので、当時関乃屋といふ旅館に泊つて居つたので、出掛けて行つては御機嫌を伺つてお願ひしたといふ。そういふ詰らぬ心配をしたこともありました。大分長く成りましたが、大体の道行はそんなものです。

**平塚氏** 私が金を募りに行つて困つたのは北川嘉平さんで、朝早く出て昼は活動して夜おそくでないといふと帰つて来ない人だから、夜余程おそくか、朝早くでないといふと会へない。遂々しまひに、京都の四条辺の料理屋で、誰かと話をして居つた。そして九時過ぎか、十時頃だつたらう。四条の橋の方へ出やうとしたら、小さな者が話をしてゐる、良く見ると北川さんに良く似てゐる。北川さんぢやないかと云ふことで摺へて、段々話をしひ、といふ訳で、承知してゐると云つてゐ

ても、同じ一万円貰ふのにも是は骨折りで苦勞でした。

原田教授 安居さん、重役会の模様を一つ

安居氏 只今渡辺さんからお話がありましたが、あれは銀行の定期総会の日でありました。何時も定期総会の後には、行員と一緒に魚市で晚餐会をやることになつてゐるのです。その銀行の定期総会の未だ終わらぬ前に、渡辺さんから手紙が来まして、皆なに会ひたいといふことであつた。何の爲めに会ふかといふことは分つてゐた。それは高商設置の問題だと云ふことは分つてゐた。良い問題だが、何分大きな金が必要でもあり、総会ではあるが後に宴会もあることだから、今日は断らうといふ相談をして、其の旨お断りした。処が重ねて渡辺さんから会ひたい。何処まで、も行くから、会ふ時間を割いて呉れといふ重ねての使ひが来たから、まア話だけ聞いて、いゝ相談だが考へさせて貰ふと云ふて別れよう、と云つて居つた。渡辺さんから色々聞いて、それから高商設立が実現したら、将来彦根に何程の金が落ちる。生徒数がどうだとか、話して、県庁より以上に良いといふ意見が出まして、差詰め県庁も何だが、県庁を取る前提としてこちらを先に取らう。高商を取れぬやうでは県庁も取れぬだらう。といふやうなことで、その折は大橋さんが非常に熱心に力説され、先きの打合せで、金が無いから別れやうと云ふことが、飛んでしまつた形でした。それから話が非常に調子良く好転して来まして、一つ皆んな頑張つて金を出そうぢやないかと云ふことで、大橋さんが、安居さんの半分だけ出すといふことを云ひ出されたが、こちらが、実力で云つても年輩から云つても、先輩として尊敬してゐるから、半分出すとか、三分の一出すとか、そういふことは遠慮しやうぢやないか、失礼ですけれど、此の機会に話を括つてしまはぬといかん、と思つて新屋（安居喜造氏のこと）を呼んで、君も聞いてゐる話だが、どうも今日話を括つてしまはぬといかんといふと、そうして貰へば結構だと云ふので括りかけた。そして大橋さんに、大橋さんこうませう。あなたと同じやうに出ませう。私も大橋さんのお出しに成るだけはお附合ひませう。と瘦我慢を張つた。そうしたら、石橋さんも大橋さんと同じ様に出さうと云ふことに成つて、それ

では何程出さう、三万円出さう。宜敷いと成つて、三人が三万円宛、それから広野さんが五千円、新屋（安居喜造氏）が五千円で都合十万円が一度に出来た訳です。後でどうも高い宴会費についた、と銀行で大笑ひをして居りました。

原田教授 全くですな

安居 さて、茲で十万円出来たといふことを、直ぐに発表して貰つては困る。大体彦根町で二十万なら二十万作るといふ方針をつけ、それから郡の方でも大体何の位作るかといふ目安をつけて置いて、今日のことは話をせないで貰ふ方が良からうと、云つて、兎に角、一つの席で十万円といふものか集つたのですが、これは一方時世が非常に良く、儲かるといふ時世であつた為めと、又地方に、大橋さん等が非常に熱心で、皆んなが乗氣になつた為めであると思ひます。

それから裏面の話に入るのですけれど、我々は早速委員会の辞令を頂戴して寄附の勧誘に出掛け、先づ東京方面に出掛けましたが、東京は関西方面程よくなかつた。私は弘世さんと別れて一足先きに帰り、大阪方面に出ました。そして伊藤忠兵衛さんに会つたところ、伊藤さんは、彦根には高商は不適當だ、高等教育ならば寧ろ高等学校が良い。商業地とか、開港地でないと、ふさわしくない、といふやうな意見があつたが、兎に角二万円程頂戴しました。

それから、私等が愈々金を出す段になりましてから随分困りまして、私が仲介役見たいになつてしまひました。石橋さんから話があつて、安居さん偉いことになつた、あれは酒の上の話だから、あんなものは一ぺん止めようぢやないか、大橋さんだつて果して出すかどうか分らん、考へ直そうぢやないか、といふことになつて、私も大橋さんに比べると子供見たいなもので、実力も違ふし、よく考へませう、とお話して居りました。それから愈々、申込額通り出さねばならなくなり、その中の幾らかでも出さねばならんやうになつて困つた。大橋さんは最初の御意志通りに変らんとして、大橋さんの小切手を先に私が貰つて預り、石橋さんのところへ行つて、実は此の通り貰つて来ました、と云つたが、それでも、それは、然し全額ぢやないから、どうなるか分らん、もう一つ考へよう、と云つて、石橋さんの御説が伸々六ヶしかつた。それで先程の平塚さんの話ぢ

やないけれど、小堀さんに頼みに行つたが何にもならないので、これはあかんと思ひました。私の方の出すと云ふ意味も石橋さんと同じく形式だけでありましたので、親族会議を開きまして、色々話を承つて居つた親戚の者が四、五人寄りまして相談した結果、新屋もやつてゐるし、町長もやつてゐる立場上出すことにしてはどうか、と協議一決三万円出す意志を決めました。そして石橋さんへも通知したので、愈々石橋さんが出さなければならんやうになつて、此の間逝くなられた方と二人が私の宅へお見えになりまして、石橋さんの方も出すといふことの回答を得ました。実際妙な話から若い者が出しや張つて、括つてかゝりましたものゝ、愈々出すといふことになつた時は、苦しいございました。

安居氏（その他）ココ丈ヶ入レル、我々はあちらこちら歩き廻りましたが、高宮の前川君のところへ行きました、丁度その時、昼飯時になつたが、寄附を貰ひに行つて昼食を頂くのも厚かましいから（笑声）、多賀へ行かうと云つて、大橋さんと、多賀の糸切餅で昼飯をしまつて、又引返して前川さん、北川さん宅へ伺つて願ひした訳ですが、あの時の糸切餅の味がまた大変旨しかつたものです。そういうこともありました、

平塚町長 あの時安居さんに決めて貰つたお蔭で金が纏つたのですが、そうでないと後はどうなつて居つたか分らぬ。卒先してやつて貰つたので土台が出来て非常な勢が出た訳です。

安居氏 兎に角、一編に十万円出すのですからね。

渡辺氏 これが出来た時は、なものぢやないか、県庁より以上だ、と最初あなた等を困らせた世間の人々が謝つて居つた。

安居 こんなものが取れなければ、彦根町の発展する見込がない。県庁以上だ、といふことで、それはいゝに違ひないが、金が何分沢山要りますので苦労しました。

藤田氏（当日欠席）

私も委員の一人に入つて居つたのですが、御参考になる程のことは覚えて居りません。只これは良かったと思ひましたのは、やはり重役会の時に寄つて居



つた人の間だけで十萬円の金が一時に出来たことでした。これだけこしらへて置けば後はきばつてやれる、といふ勢が出来た訳です。安居喜造さんが町長さんで、喜八さんが銀行の重役だつたものですから、御尽力下さつて出来たのです。

当時蔭で色々骨折つて下さつた方には吉田久一郎、役場に居ります、田中助役、赤井安吉、奥村三好等の人々があります。一通りのことは学校の方でもお調べになつてお分りになつてゐることゝ思ひますが、別に御記憶になつてゐることがございましたらそれ等の方にも頼んで、書出して置いて貰ひたいと思つてゐます。私としては皆さんと一緒に働いて参りましたが、お恥しい乍ら、別段これといふ記憶もありませんので申上げる程のこともございません。

**矢野校長** お蔭で事情がよくわかりました、大変皆さんにお世話になりましたが、未だ、これといふ偉い者も出て居りませんけれど、然し一方悪い者は出て居りませぬ、段々頭を挙げかけて居る者が出て来て居りますから、やがて御好意に報ゆる時があるだらうと思つて居ります。

**平塚町長** さつき伊藤さんの話が出ましたが、当時、伊藤忠兵衛さんは世界の金持の番附の端に入るやうになつたと云つて居られ、儲け高が一億圓といふやうな勢であつたから、金の二万や三万は訳なく、当然貰ふ積りで居つた。飛ぶ鳥も落すといふ勢、その上商業学校の出身であるから、といふので話出したところが俺は不賛成だ、彦根に高等商業学校等思ひも寄らぬ、高等学校なら或はいゝかも知れんが、商業なんていふものは校門を出たならば、見るもの聞くもの総てが教材になるやうなところでなければならぬ。だから彦根あたりに高商なんて云ふことは、それは不適當だ、そんな不適當なところへは金は出せぬ、といふ調子で、それを段々説くのに苦心した、度々大阪まで行き本町二丁目の丸紅の店へ行きました。そして忠三さん、この方が穩健な方だから此の方から頼み込みまして、結局出さぬ訳にも行かぬだらうと、話が纏つて三人で三萬圓貰つたと思ひます。

**原田教授** 忠兵衛さんは二萬圓になつて居ります。

**平塚町長** 忠兵衛さんといふ人は言ひ出したらきかん人で、覇氣満々、世界の

番附に出る位の勢だから仲々きかない、楽々館に引張り込んだりして大分頼みましたのですが仲々きかないので苦勞しました。

**渡辺氏** そうでした、大阪の店へ度々行きましたね。

**田原氏** 北川嘉平君等と一緒にだつた。そんな寄附を強奪するのは時世が違つてゐる。陛下の御命令を以てするも我々は断じて動かぬ、そんなものに応ずる時代ぢやない、とひどいことを云つて、そりくり反つてしまつたのです。丸紅の内頼の仕事をして居つた人は村岸久五郎といふ人で、綿糸部の支配をして居つた。その村岸君を通して色々工作をした。それから田附政次郎さんの話も、村岸君が下地の仕事をして呉れました。

**田原** 是以下ヲ載セル、不破さんの寄附金のまとまりは、中川留次郎といふ人の先代が不破の会計をやつて居りました。そこへさして会見に行き、こうこういふことで出て来たか、十万円程貰ひたい、といふと、一体彦根の金持はどの位出してゐるのか、彦根は大口は三万円程出してゐるから、それより大きい金を出すといふことも出来ぬから、一つきばつて貰はんと困ると、話して居つた。それでは話をして置くといふことで、後で大勢で行つた始めての時ですけれど五万円早速呉れた。その時分の宿は、本町の商人宿の頭のつかへるやうな二階だつたが、皆んなが代る代る頂いて持つて帰つたのです。その勢で方々歩いて、弘世さんのところへ行つたら、弘世さんは、六十万円要るのであるならば、一万円の口を六十口作るやうにすれば良い。そうすれば楽だらう、と云はれた。岸田さんが傍に居られて、それもそうだ、といふやうなことで、岸田さんも一万円出されました。

**平塚町長** 何遍も相談に行つて、大阪をよく誘導して貰つたのは、岸田、松本、中川、村岸等の諸氏で、それには皆んな筋がありますから、田原君も、どちらがいゝといふ場合に出さぬ筋は一緒に行つて貰つて来たのですが、金のことだから、楽と云つても、そう楽ではなかつたが、兎に角予定の金額を超過するだけ出来たといふことは、珍らしいことでした。以下ハブク、そして九年になつたら、あの恐慌でバサツと来たので、工業学校の時には実に悲惨極つて居つた。

**矢野校長** 伊藤さんの高等学校論ですね、それに対して、あなた方はどういふ議論を以て、高等商業といふ主張をされたのですか。

**平塚町長** 滋賀県は商業家の出身地であるし、そういふ潜在意識を持つてゐる子弟ばかりだから、本県に高等商業を置くことは最も適當だ、と云つた具合に。

**矢野校長** 初めから滋賀県ならば高等商業だ、といふことで他の議論はなかつたのですね。

**平塚町長** 高等学校と思つてゐる人は誰もなかつた。伊藤さんだけがそんなことを云つて居られた。金を出さん積りか何にか、そういふ高<sup>商</sup>邁な意見を云つて居られ、兎に角、高等学校一点ばりで、高等学校ならば彦根に適するだらうけれど高等商業は不適當だ。大阪とか神戸とか、一步校門を出れば総てが研究教材になるやうなところでなければいかんといふ意見、それ一点張りではでしたが、我々の方はそれに対して、滋賀県は近江商人淵叢の地でもあり、そういふ系統を引いて居る現代の人であるから、どうしても高等商業を置きたいといふことの一点ばりであつた。土地の發展といふ点から云つても大切なことだつたから、学校の種類といふ点に於て、熱中した主な原因なんです。

**原田教授** 渡辺さんが森知事に始めてお会ひになつた時の話では、滋賀県には高商が振り当てられてゐるとおつしやつたのですか。

**渡辺氏** 専門学校が振り当てられてゐるといふことでしたが、然し、誰が見てもやはり商業ですね。

**平塚町長** 森知事は高等商業が良からうと云ふことを云つて居られたし、誰に聞いても高等商業がいゝといふ意見でありました。

**田岡教授** 当時八幡町はどうでしたか。

**平塚町長** 寧ろこちらの方へ応援して居つた位です。

**矢野校長** 新聞を見ると、金が集まるまい、といふのに運動をやつて居つたやうですね。

**田原氏** 梅村君なんかは寄附金も幾らかするし、合流するといふことでした。どうしてもやるといふやうな意志はなく、蒲生以北七郡は彦根に応援しました。

**矢野校長** 当時の新聞では、八十万円といふ寄附金は容易に纏るまい、といふ記事が出て居りますね。

**田原氏** 豊田さんに一万円頼んであると云つて居つたが、貰ひに行かずにしまつた程でしたが、内実は非常に苦心しました。

**平塚町長** 当時の知事の森といふ人は、あゝいふ変つた人でしたけれど、今から思ふと仲々人物でしたね。

**渡辺氏** 話に聞くと、こちらは和歌山と一緒に出来たのであるが、和歌山の方は、比較的本省から沢山金を取つてゐるといふことですね。彦根は取り方が下手だから、運動場を設ける際にも累を及ぼした、といふやうな話ですね。

**矢野校長** 和歌山も開校記念の時に寄附は一時に集めましたけれど、それは書物に使ひました。こちらは創立当時図書に割当てられた金を、使つてしまはないで返してしまつた。下手なことをしたものです。私が見に来た時に非常に図書が少いので、専門学校で、こんなことではどうするか、と云つて居つたが、後で私がこゝへ来た時は和歌山の半分位しかなかつた程です。

運動場は寄附で完成したものですから、御蔭で和歌山とは比較出来ぬ程良いものが出来て居ります。和歌山は図書費は使い切つたけれど、技師が良くなかつたから、建物を儉約して金を非常に多く余した。他の高商でも余つたものですから、全部本省で取上げてしまつた。そして高商の余した金を高等学校へ向けるといふ計画があつて、私が文部省で高商に関係して居つたものですから、高商で余した金を高等学校へ出すといふことはない、といふことで其の金で高商の設備を充実する為に努力しましたが、その点で和歌山は非常に損をしました。

**平塚町長** 中橋さんが初めて巡視された時は、ず一つと外堀の長曾根辺から廻られました。

**原田教授** 地鎮祭の時は？

**平塚町長** 地鎮祭の時は、山崎さん（達之輔氏）がお見えになりました。

**矢野校長** 大津とにらみ合ふといふことはありませんか。

**渡辺氏** そんなことはありません。大津が敵視したのはレーヨンのことでした

から。

**安居氏** その当時の彦根の形勢では、県庁も必ず取るといふ勢でしたね。

**原田教授** 大津は膳所に敷地を設けてそこへ建て、膳所と合併しようとする案だつたらしいですね。

**平塚町長** 膳所といふのは非常に貧乏町で、大津か合併するとせば、貧乏をかつぎ込むやうなものだつたから、大津も手が出なかつた。今でも膳所といふ町は財政的には貧弱です。

**渡辺** 膳所は土地柄が昔から宿場で、郷土愛といふものが心からありませんね。

**田岡教授** 県庁所在地だと云つて、県費をやつたところがあつた様に思ひます。大分市がそうです。大分も茲でやつたと同じやうに寄附を集めましたが、半分は県費で割当てました。

**平塚町長** 茲でも県費を出すやうにしたけれど、それはホンの僅かです。

**原田教授** 和歌山は殿さんが三十万円出して居りますね。

**矢野校長** 高松も出して居ります。

**田原** こちらの殿さんは一万五千円でしたかね。

**平塚** それも大変骨が折れたんです。

**田岡** 高松は校長官舎を寄附して居るですね。

**平塚** 高松の殿さんは県の教育会の総裁なんかやつて居られて、年に一、二回は来られるといふことですね。

**渡辺** 直弼公の娘さんで従妹に当る人がありますね。

**田岡** 高松のお殿さんは、七年制高等学校の時分に金を出すと云ふて、出す積りだつたが、おぢやんになつてしまつたことがある。

**平塚** 一昨年鉄道の間ヶ原附け替への問題が起つた時、貴族院方面の同情を得ようと思つて行きました時會ひましたが、氣の低い、とても障りの良い人でしたな。

**矢野校長** 敷地は結局どの位になつたのですか。

**原田教授** 買収したのは一万五千坪といふことになつてゐる。

**平塚町長** 坪六円以上には附いて居ります。

**田岡教授** 約九万円位ですね。

**矢野校長** 和歌山と一緒に出来ましたけれど、和歌山とは比較にならん程成績はよかつたのでせう。

**平塚町長** 全くです。後の寄附金を貰ひに行つて置くと、書籍代位は楽に出来て居つたのですね。もう腹が脹れてしまつて、出て行きませんでしたものですから。

**渡辺氏** 利息で楽に仕事が出来、又利息で種々記念品なんかも贈れましたのにね。

**原田教授** 全くそうですね。

**平塚町長** 今から思ふと貰つて置けば良かつたですね。

**安居氏** 然し、寄附者には木盃、銀盃なんかが出て居りますね。

**原田教授** 一万円以上の寄附者には、四寸位の大ききで三百五十匁位の銀盃一個、五千円以上は、同じく形が違ひますけれど銀盃が出て居ります。

**平塚町長** 奔走した者は何もない。

**矢野校長** 開校記念の花瓶が出てゐるでせう。

**渡辺氏** あゝ、あれは確かに貰ひました。(洪笑)

**平塚町長** 貰ひましたね。

**田原氏** 寄附の先き走りに歩いたゞけですから、取りとめたものは何もない訳です。

**平塚氏** 神崎郡あたりの人も、頼みに行つた時は出しますと云つて居つたから、行けば貰へたです。

**矢野校長** 貰ひたいものでしたね。

**渡辺氏** 不毛の地を一銭か十銭位で買取つて、非常な富豪になつたものがある。神戸の橋の端にある家で、深沢だと思つてゐますが、そこで一万円貰つて来ました。

**平塚氏** そうです、深沢でした。高麗橋の傍に一寸した洋館建の事務所があつて、そこへ行きまして一遍で一万円貰つて来ました。あれは実際思ひも寄らんこと

でした。

**原田教授** 大体は犬上郡の出身者ですね、田附さん、阿部市太郎さん等は特別ですね。

**平塚氏** 加納君は五千円ですか。

**田原氏** あの人は一万円だつたでせう。

**原田教授** そうです。

**田原氏** 何ん遍行つても貰へなかつたんです。

**安居氏** 高商の寄附金といふと、何んでもそれを調べてそこへ行くのです。台帳です。然し、全く時勢が良かったのですな。

**平塚氏** そうです、九年になつたら駄目でした。落成式か、記念式の時に阿部さんが、良い時に、金を出さして貰つたが、今なら千円の金もかなはん、と自分でも云つて居られました。

**矢野校長** 今は又いゝそうですね。

**平塚氏** そうでせう、丸紅あたりも殆んど元へ戻つてゐるそうです。

**田原氏** あれがきっかけで彦根町の議員に才が出来た、心良く金が貰へるから、郷土へ帰つて貰ふ細工が出来るやうになつて、都会の人と連絡がつくやうになつたので、それまでは何もなかつた。

**渡辺氏** 全く都会の人と連絡がつくやうになりましたね。

**原田教授** 安居喜造さんなんかは、大変苦心されたそうですね。

**平塚氏** 私は蔭でやつて居つたが、ある人は表面に立つて始終働いて居られた訳です。よく怒る人で、直ぐに腹を立てる人でしたが、非常に熱心にやられた人でした。

**田原氏** 皆んな熱がありましたね。

(阿部安成) (続く)